

平成 28 年度第 1 回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	平成 28 年 6 月 27 日（月）14 時～16 時 15 分	
会 場	千歳市社会福祉協議会事務所 2 階 第 2・3 会議室	
出 席 者	（委 員）※50 音順	（市・事務局）
	委 員 青砥 三枝子 委 員 吾田 富士子 委 員 石岡 くに子 委 員 上田 純恵 委 員 大関 恵子 委 員 倉田 真智子 委 員 児玉 美津子 委 員 三溝 昌宏 委 員 谷掛 亜紀 委 員 辻 裕子 委 員 伝庄 彩子 委 員 西 博康 委 員 松浦 まゆみ 委 員 三浦 朋美 委 員 森本 麻美	市長 山口 幸太郎 保健福祉部長 原 文雄 子育て支援室長 上野 美晴 こども政策課長 船着 卓也 こども家庭課長 磯部 由起子 子育て総合支援センター長 奥山 佳子 こども療育課長 佐々木 幸廣 こども政策係長 石澤 敦 こども政策係主任 染野 裕希子
事 務 局	保健福祉部 子育て支援室 こども政策課	
会議の公開	公開	
傍 聴 者 数	2 人（報道関係者）	

1 開会

2 委嘱状の交付

3 市長あいさつ

（山口市長） 皆様、こんにちは。今日は、本年度第 1 回目となります子ども・子育て会議のご出席ありがとうございます。また、委員としてご就任いただきありがとうございます。これから数重なる会議となりますが、どうぞ皆様方には、積極的なご参加、ご発言をお願いします。現に子育て中の方もいらっしゃることで、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思っております。

今、千歳市は子育て支援に重点的に取り組んでおり、中には他の模範となるよ

うな先進的な取り組みも進めています。こうして千歳市が子育てに力をいれている背景は、現在の最重要課題である定住人口の増加の取り組みであります。今、全国的に人口が減っている時代に、それを食い止めようとしている自治体がたくさんありますが、あえて人口を増やそうという自治体は数多いわけではありません。

現在進めている千歳市第6期千歳市総合計画は、平成23年度にスタートし、向こう10年間に渡って千歳市の発展の姿を見せる計画であり、今年が5年目ということになります。当初、平成23年度から32年の10年間で人口を9万5千人にするという計画を立てました。幸いなことに、計画を立てて3年の間に9万5千人を達成いたしました。そこで、現在増えている状況等について検証を重ねた結果、2千人を上乗せして、人口を9万7千人に上方修正することを決めました。そして、今年から以後5年ですが、人口を2千人増やそうということを去年決めました。去年決めて6か月半で人口は増え続け、目標まであと800人というところまできました。

人口が増えている要因はいくつかあります。一つは、社会増といわれる転勤等で転入される方と転出される方の差をマイナスにしないようにするもので、転入増、社会増も一定程度伸びているということがあります。それから、企業誘致であったり、空港があったりということで、職場が確保されているということが大きな事由であります。そして、何よりも一番人口増に貢献しているのは、出生率であります。1年間で900人を超える赤ちゃんが生まれています。そして亡くなる方は650人くらいですから、その差が自然増ということになります。

したがって、今後も人口を増やす、減らさないためには、若い女性の皆様方に、千歳市で子育てをしていただくということが大変重要なファクターであることがいえます。そのために、出会いから結婚、妊娠、出産、子育て、教育という一連の流れの中で、施策を体系付けて行うこととなります。子育ても量・質ともに相当なボリュームでございます。これからもそれを進めていかなければ、いわゆる少子高齢社会の波に対応していけません。

当市の人口は増えていますが、反面、高齢者の数は年々増えており、現時点では約21%となっています。一方、子どもの数は増えてはいるものの、人口に比較すると減っており、17歳以下の子どもたちの占める割合は17%くらいとなっています。人口が増えて子どもの数が減っていますから、まさしく当市においても少子高齢化が進んでいるといえます。そうしたことを背景にしながら、子育て支援を充実し、このまちの若々しい活力をこれからも維持していきたいと思っております。

結論になりますが、今日ご委嘱申し上げました皆様には、ぜひ千歳市の将来を俯瞰しながら、建設的な意見を述べていただきたいと思います。皆様方は、

やがては子育てが終わる時期がくるかもしれませんが、次の方々が子育て世代へと移り変わります。その方々が夢や希望をもって、千歳のまちで出産、子育てできるようなまちづくりをぜひ皆様方に議論していただきたいと思っております。この会議が一層充実することを心から願っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

4 委員の紹介

5 議事

(1) 「千歳市子ども・子育て会議の運営について」

①会長、副会長の選任

子ども・子育て会議条例第4条に基づく会長、副会長の選出について、委員から「事務局一任」の声があり、会長に吾田委員、副会長に石岡委員が選任された。

(会長あいさつ) 皆様、よろしくお願いたします。

私は、常日頃、保育者の卵を養成していますが、昨今の保育士不足の問題は甚だしく、保育士の資格がない方も現場に送るという話になっておりまして、横浜市や仙台市などでは、地域限定保育士というものはじめている時代です。しかし一方で、10年後20年後には少子化の中で、保育士が余っていく状況になり、幼稚園や保育所が倒産し、保育士養成学校もなくなっていく状況が予想されています。

道内でも、待機児童がいるのはほんのわずか、札幌市と函館市、旭川市くらいです。どんどん保育者が溢れていく時代になる中で、今いる子どもたちのことも、将来のことも、考えなければならないと思っています。養成校の若い学生たちは少なくなっています。しかし、保育士の仕事は、今後どんなに人口が減っても、なくなる仕事ともいわれています。これから先、5年後10年後、今の子どもたちが就職するときに、実に65%の子どもたちは、今ない職業に就いていくといわれています。これは、今ある職業の65%がなくなっていくということでもあります。

その中で、確実に残っていくのは、教育の仕事、保育の仕事、福祉の仕事だと思います。保育のすばらしさ、魅力をどんな風にこの国の人々に伝えていくかが私の仕事であり、皆様の仕事でもあるのかなと思っています。千歳から、子どもたちの魅力、保育の魅力を発信できると、日本は少し住みやすくなっていくのではないかと思います。この席に立たせていただいております。

これから、3年間、皆様と切磋琢磨しながら、千歳の子どもたちのことを考えていきますので、どうぞご発言よろしくお願いたします。

②千歳市子ども・子育て会議の役割について

こども政策課長から「資料1」により説明。

(会長) 何かご質問は、ありませんか。

(質問なし)

(2) 「第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画の概要について」

こども政策係長から「第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画(概要版)」により説明。

(会長) 皆さん、ご質問、ご意見ありましたら、お願いします。

(A委員) このアンケートは、いつ頃行われたものですか。

(こども政策係長) アンケートの調査期間は、平成25年10月28日から11月18日までの期間です。配布部数は、3,000部であり、調査の対象は、住民基本台帳から無作為抽出といたしまして、各世帯に郵送で配布させていただきました。回収率は、49.1%です。

(3) 「“子育てするなら、千歳市”の政策について」

こども政策係長から、「“子育てするなら、千歳市”政策冊子(第6版)」により説明。

(会長) 千歳市は、たくさんの事業をしているということが、ご理解いただけだと思います。資料中に「財政力指数」とありますが、現在、道内の1位はどこになるのでしょうか。

(保健福祉部長) 財政力指数は3年平均値で発表しておりまして、平成24年から26年までの数値が最新値であります。ここ数年、道内都市部では千歳市が1位です。

(会長) ありがとうございます。千歳市の子育て政策は、色々なアイデアから生まれていますが、資料の中の「ちとせ版ネウボラ」もその一つです。これは、フィンランドで発生した施設で、子どもが生まれたときから修学前まで相談に行けるという場所で、縦割り行政では難しい部分を解消することを目指しているものが、ネウボラです。

また、先の説明でありました事業計画における3つの視点「子どもの視点」「子育て家庭と地域の視点」「千歳の将来の視点」がとても重要だと思います。今までの施策の多くは、「親子の子育て家庭と地域の視点」、「千歳の将来の視点」でした。欠けているように思われるのは、「子どもの視点」です。子どもの視点は、行政自らが視点をおくことが難しく、そこの視点を子育てしているご家庭、保育現場、色々な立場で皆さんが子どもの立場を代弁する役割を担っていると思われまますので、そこの補充をお願いしたいというのが、この会議の趣旨でもある

と考えます。

(4) 「教育・保育施設等の現状と今後の方針について」

こども政策係主任から、「資料2-1～2-4」により説明。

(会長) ありがとうございます。ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

それでは、ないようですので(4)については、ご承認いただけただけということ
で、すべての議題を終了します。それでは、委員就任の豊富や会議の感想など、
皆様からひと言ずつ、いただきたいと思います。

(以下、委員の発言については順不同。)

(A委員) 私は、3人の子の母として長い子育てをしています。5年前に千歳市に
引っ越してきましたが、フリーペーパーや子育てガイドなどを活用して、千歳を
とても楽しんでます。去年は、「親子でフリマ」に子どもたちと参加させてい
ただきました。親子向けのイベントなど、楽しいことを考えて意見を出せたらな
と思えます。

(C委員) 会議では、色々なお話を聞いて勉強させていただいたり、現場で聞くお
母さんたちの声や気持ちを伝えたりできればと思います。

(D委員) 私は、就学前の娘がいますが、1年半前に千歳市に引っ越してきたばか
りで、友達がなくて、とても不安でしたが、今では子育てサークルのメンバーに
とても支えられています。今後も子育て支援センターの「転勤者あ～つまれ」の
イベントは続けてほしいです。最近友達の中で幼稚園探し話題が出ており、
色々な幼稚園を合同で紹介するイベントがあったら助かるという話が出ていま
す。

(E委員) 議題4について、保育定員が増えるのは、とても良いことだと思いま
した。そして、保育定員が増えたと同時に、障がい児の枠も少し増えてくれるとい
いなと思います。私も転勤族ですが、以前住んでいたところと比較して、千歳市
は、教育・保育施設が多いことや幼稚園の未就学児活動の負担の違いなどに驚い
たことがあります。

(F委員) 職務上、たくさんの親御さんと関わる中で、色々な悩みや疑問をお持ち
だなということに直面しております。

一つ質問ですが、議題4の「教育・保育施設の事業者の公募」に際し、休日保
育や病児保育などの実施提案が募集されていましたが、いかがでしたでしょうか。

(こども政策係長) 来年度に保育定員110人を増員するに当たり、5月上旬に事業
者の公募を行いました。募集要項中で、「病児保育」「一時預かり」「休日保育」
3つの事業を実施する事業者については、審査の点数を加点という形で、より参

入しやすくする条件を附したところであります。結果については、「一時預かり」「休日保育」については、どの事業者からも提案がなく、「病児保育」のみ一箇所から提案がありました。

(G委員) 私は日々、親子と向き合せていただいておりますが、行政と親子のパイプ役になれるよう心がけています。「子育ては日々」であり、昨日は大丈夫だった気持ちが、今日は挫けてしまいそうな方もたくさんいるので、その部分に寄り添いながら、“子育てするなら、千歳市”を進めていきたいと思っています。

(H委員) 今後、子どもたちの側の気持ちを代弁できる人として、この会で役に立たせていただければと思っています。新たに幼稚園や保育所が認定こども園になるという説明がありましたが、お母さんたちが子育てしやすく働きやすい地域がまた一つできあがっていくと思うと、千歳市はすごいなと感じました。

(I委員) 千歳市の色々な政策を聞いておまして、すべてを理解することは難しいと思いつつも、自分が関わっているところを今後一つでも二つでもお話ししたいと思いました。

(J委員) この会議に出席することで、より具体的に千歳市の子育てのしやすさを子育て中の保護者にお伝えできるかなと思います。せっかくの機会ですので、私自身も勉強させていただきたいと思います。

(K委員) 今回、話を聞いていて、わからないことばかりで、もっと勉強しなければならぬと思いました。認定こども園のことですが、最初にそういう制度ができると聞いた時には、仕事もしやすく母親にとって良いと感じていましたが、今周りのお母さんたちから聞くと、保育料が上がる、定員が少なくなり入りにくいなど、良くないイメージを持っているお母さんたちが多いので、どうしてなのかなと思ひ、私ももっと勉強したいなと思っています。

(保健福祉部長) 認定こども園ですが、今までは、幼稚園と保育所どちらかを選択することとなり、母親が働いていれば保育所、仕事を辞めたら幼稚園と、お子さんが母親の就労状況により施設を行ったり来たりしなければなりません。国が新しい制度として普及させている幼保連携型認定こども園は、母親の就労の有無に関わらず、同じ施設で継続して入園できる仕組みとなっています。

保育料は、認定こども園、保育所、小規模保育事業所、すべて同じであります。平成27年度からは、市の保育料が国の基準と比較して平均22.5%軽減しています。それでも、ご負担する側からすると、高いというイメージがあるのかなと思います。

また、希望通り入れないということについてですが、先ほど説明したとおり、この2年間で、相当定員枠を増やしています。一方で、子どもを預けて働きたいという方も相当増えています。来年保育定員を110人増やすことを予定しており、この3年間で保育定員を41%増やすこととなります。それでも、特定の園に入

りたいと希望する方がいて、それは、他の園が空いていても、気に入った園に入りたいということだと思います。そうした部分で若干のミスマッチはあるかと思っています。

(L委員) 子どもの年齢(進級)にあわせて小規模保育事業所、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校の連携がうまく回ればと思っています。札幌市など他市では、すでに幼保小の連携会議などを設けているところもあります。特に小学校との連携がうまくできれば、保育施設からの情報の共有もできるのかなと思っています。

(保健福祉部長) 幼保小連携は、基本的に教育委員会が担当しています。幼稚園や保育所が幼保連携型認定こども園となると、その施設型給付は保健福祉部が担当しますし、将来的に幼稚園が施設型給付になると保健福祉部に担当が変わることとなります。これまでは、私学助成の幼稚園は学校教育施設として教育委員会の管轄でした。幼保小連携の重要性については、今後も引き続き、教育委員会とよく検討してまいりたいと考えています。

(会長) 札幌市での取り組みなどもありますので、千歳市で積極的な連携も期待したいところです。

(M委員) 私は、特に0歳から18歳までの子育てに関わり、子どもたちを見守る立場で地域での活動を行っているところです。市は色々な事業をしていますが、その中で漏れる方もいらっしゃると思うので、そういう方を地域で発見できればと願っています。今日の説明を聞いた感想ですが、以前より増して千歳市で子育てしたいなと思いました。

(N委員) 市長の話をお聞きして、人口増加の部分で、私も施設の運営者として、地域の子どもたちを預らせていただいています。転入者が施設に入所してくるので、人口増を実感しております。より一層地域に根差した運営を行っていきたいと考えています。

(O委員) 私は、女性が多い職場ですが、立場的に産休や育休を取れませんでした。シングルマザーを支援する取り組みとして、ベビーシッターや家政婦制度のような17時から20時くらいまでの子どもを見守っていただけるような場所が必要ではないかと思っています。

(会長) 皆さん、貴重なご意見ありがとうございました。私の進行は、これで終わります。ありがとうございました。今後も一人ひとり個人の意見、本音トークで、千歳市をより良くしていきたいと思っておりますので、皆さんよろしくお祈りいたします。

(子育て支援室長) 皆様の任期は、3年間となります。今後とも会議のご対応、ご出席につきまして、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、保健福祉部長から一言ご挨拶申し上げます。

(保健福祉部長) 本日は、ご出席いただきありがとうございます。本会議は、市と

して重要な会議に位置付けており、第1期の3年間は、委員の意見が数多く子育て政策に反映されております。今後の3年間につきましても、皆様から忌憚のないご意見をいただき、行政としてできるだけ取り組んでいきたいと思っております。

この3年間で子育て支援の事業費が大きく増額となっておりますが、子育て支援を担当する職員も一生懸命取り組んでいます。ぜひ皆様からご意見をいただき、千歳市の子育て支援がより一層発展するように、ご協力いただきたいと思います。

(子育て支援室長) それでは、これをもちまして、第1回子ども・子育て会議を閉会します。本日は、ありがとうございました。

6 閉会